

# 来年7月、家持の舞踊

## 富山、生誕1300年記念で上演 主演の蘭黄さんら会見



越中万葉創作舞踊『万葉高志の国』制作発表

とやま舞台芸術祭実行委員会(事務局・富山県芸術文化協会)は来年7月、大伴家持の生誕1300年を記念した舞台「越中万葉創作舞踊『万葉高志の国』」を富山市内で上演する。同日、制作発表の記者会見が行われ、家持役で主演する

日本舞踊家の藤間蘭黄さん(55)―東京都―ら出演者が魅力をPRした。

舞台の魅力はPRする蘭黄さん(中央)  
―富山市の高志の国文学館

県日本舞踊協会の加盟団体の生徒らも出演する。  
脚本や演出、振り付けも手掛ける蘭黄さんは和と洋の舞のコラボが見どころの一つになるとし、「古代の人の生活や見た景色を舞台に描いていきたい」と意気込みを語った。

# 家持の世界 日舞・洋舞で

生誕1300年記念

## 「万葉高志の国」上演

### 富山 来年7月



越中国守だった歌人、大伴家持の生誕1300年を記念した「越中万葉創作舞踊『万葉高志の国』」の制作発表会見が22日、富山市舟橋南町の高志の国文学館で開かれた。家持役を務める日本舞踊家、藤間蘭黄さん(東京)や主要キャストを担う可西舞踊研究所(高岡市)の可西晴香代表、和田朝子舞踊研究所(富山市)の和田朝子主宰らが出席し、「いにしへのロマンを表現できるような力で臨みたい」と意欲を語った。

創作舞踊は節目に合わせて(事務局・県芸術文化協会)が制作。2018年7月下旬、県が主催する記念式典に合わせ、富山市内で上演する。

会見には蘭黄さんらキャスト3人と、原作を手掛けた県芸術協会の久泉進雄さん(富山市)、蘭黄さんの妻で舞踊評論家の桜井多佳子さん、実行委員長で制作統括の舟本幸人さん(同)らが出席した。

主役に加え、脚本、大伴家持生誕1300年を記念した創作舞踊の上演に向けて意欲を語る(右から)桜井さん、藤間蘭黄さん、久泉さん、和田主宰、可西代表

―高志の国文学館

演出、振り付けを担当する蘭黄さんは、プロローグから花の章、海の章、人の章、フィナーレまでのストーリーを説明。「万葉集を通して昔の日本人の生活や考え、見ていた景色を舞台に表現できれば面白い」と語った。日本舞踊と洋舞のコラボレーションも見どころで、「得意技を持ち寄り、舞台の上で戦わせたい」と意気込んだ。

家持の妻、坂上大嬢役で、演出、振り付けを補佐する可西代表は「壮大な物語にわくわくする」と話し、叔母の坂上郎女を演じる和田主宰は「和に近い振り付けで表現したい」と語った。

作品には、県日本舞踊協会の藤間松山理事長の弟子、青山浩さん(魚津市)や県洋舞協会に加盟する団体の子どもたち約150人も出演する。

北日本新聞社共催。